

(平成17年度城北会懇親総会)

企画局総括

2005.7.23 企画局責任者 中川 孝

総会の企画を総括するに当たって次の事柄をふまえる必要があります。

1. 城北会における総会開催の意味

総会は、城北会のための総会であり、総会のための総会ではありません。一回ぼっきりの実行委員会組織、マンネリの会進行と挨拶で構成され、責任年次だけが大量に参加する総会。ある意味で城北会が関与しない総会。これが城北会の連帯感高揚にどんな役割を果たし得るのか、単にお祭りということで良いのでしょうか。

2. 総会参加者の動員戦略

参加者動員については実行委員会としての戦略性に欠けていたと感じています。

動員については、具体的な基本方針プラス個々の組織独自の動員方策が必要ですが、今回は会直前のプッシュを除いて後者のみの感が強かったと思われます。

【企画の役割について】

総会における企画業務の役割は最低以上の2点をふまえて勘案する必要があります。

今回の企画は、たまたま様々なブレーンに恵まれ、狙い通りに事が進んだという幸運があります。今回はいってみればイベント総会でした。その物珍しさが評価されました。

今後どのような色付けで総会を企画するのか、城北会の連帯にどのような役割を担わせるのか、参加者動員の力になる企画はどんなものなのか。このあたりから具体的な企画案を生み出す必要があると思います。

【アンケートの必要性について】

総会直前でアンケートの実施について提案がされ、私はその趣旨に賛同しました。しかしながら、如何せん煮詰める時間がありませんでした。今まで述べてきたことを実践するために、アンケートが今後の城北会とその中の総会のあり方を検討するための有用な手段となると思います。

【採用情報のチェック体制について】

総会で採用し公にする情報収集に関しては、余裕ある時間と確実な情報源の採用、そしてそのチェック体制が必要です。絶対間違えてはいけないことも多々あります。

我々は今回いろいろと新しい試みをし、冒険をしました。複雑な構成をいろいろ考え実行しました。しかしながらそのために会場の皆さんに開示する情報も多岐に渡り、そのため確認すべきことを十分に確認できなかったことという事実がありました。

【総会というものあり方について】

今回、私たちは意識的に中途半端なことをやりました。報告会とイベントの曖昧な合体です。いつまでも飲食できない上、歓談の時間を犠牲にしたイベント盛沢山の会構成。

一方で長々とした挨拶。イベントは面白かったが歓談や飲食の時間が無かったという意見が出たのは当然です。

勿論私たちはこのことは承知の上で会の構成を作り上げました。今回の総会は今後の総会のあり方を論ずる布石にはなったと思います。